



【Q】51歳の男性です。会社の人間ドックを受けてピロリ菌が胃の中にいると言われたのですが、ピロリ菌がいるとどんな病気になるのでしょうか？ 今後どうしたらよいのでしょうか。

【A】おそらく血液検査でピロリ菌抗体検査を施行され陽性と言われたのだと思います。ピロリ菌の感染により胃粘膜には慢性的炎症

胃の中にピロリ菌



こぬま いちろう
小沼 一郎

が起こり萎縮が出現し、次第に進展します。それが、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃過形成ポリープ(写真は除菌によって消失した胃ポリープ)などの主な原因と考えられています。

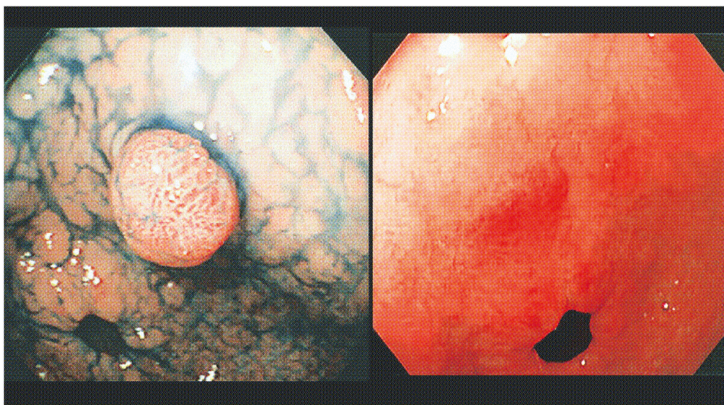
一方、ピロリ菌に感染したことがない人の胃粘膜に炎症や萎縮が生じることは極めてまれです。ピロリ菌の感染経路は不明で、幼児期(4〜5歳くらい)までに感染し、大人になってからの感染はまれであると言われています。

除菌で発がんリスク軽減

しかも、日本の研究者
県医師会常任理事。
医療法人小沼内科胃腸科クリニック(那須塩原市)院長。獨協医大臨床教授。順天堂大卒。61歳。

います。つまり一度除菌に成功してしまえば再感染することはほとんどありません。

また、ピロリ菌に感染している人はそうでない人より将来胃がんになる確率は3倍以上高まると言われています。1994年に世界保健機関(WHO)の下部機関である国際がん研究機関は「ピロリ菌は胃がんの確実な発がん原因である」とコメントしました。肺がんに対する喫煙と同じ扱いです。



除菌前(左)と除菌後(右)。ポリープが消えている

からも若いうちにピロリ菌を除菌した方が胃がんになる確率は低くなるという論文が出ていますので、ピロリ菌がいると言われた人はなるべく早期に胃の内視鏡検査ができるから、日本の研究者ら医療機関を受診し、検査を受けることを強くお勧めします。

2013年からは「ピロリ菌に感染している慢性胃炎」については保険診療でピロリ菌の除菌療法ができることになりました。しかし、胃内視鏡検査をするには必須条件になっています。

なぜなら現在胃がんになっ

る薬)の薬を飲むだけです。これで約80%の人は除菌できます。薬を飲み終えた後1カ月以上たってから除菌に成功したかどうかの検査(内視鏡でなくてもよい)を受け、成功を確認してください。

(第2、4金曜日掲載)

ドクターへの質問を募集します。お寄せいただいた中から毎月2件、紙面で回答します。病気の症状や経過などをなるべく詳しく書いてください。名前(匿名可)、年齢、性別、連絡先(住所、電話番号)を明記し、〒320-0866、下野新聞社くらし文化部「健康よろず相談室」係へ。住所不要。ファクス(028・625・1185)、メール(dotoko@shimotsuke.co.jp)でも受け付けます。